

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス たまゆい		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数) 36人
○従業者評価実施期間	令和8年1月8日		令和8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じて、小集団活動をメインとした支援プログラムをおこなっている。	低学年や高学年、発達段階を考慮してチームを分けておこなっている。 小集団活動を中心に、SSTや視覚支援を積極的に取り入れた5領域に基づく支援を実施している。	子どもの特性を考慮しつつ、より多方面からアプローチできるよう専門性を高めるため、部内研修やプログラム会議の充実、部外研修等への参加をより積極的に進めていきます。
2	1に応じて、作業療法士や保育士による専門的個別支援プログラムを実施している。	小集団活動だけでは改善しにくい、粗大運動、微細運動、コミュニケーション等の課題において専門的支援を実施している。	専門的にアプローチしていく子どもの成長は日々見込まれるが、対象の拡大については人員配置等体制上の課題も残るため、小集団活動含めた全体的なプログラムの組み方を工夫するなどして、更なる充実を図っていきます。
3	子どもの現状を保護者と丁寧共有している。 安心・安全な支援体制、職員間での情報共有を大切に、子どもが安心して過ごせる環境作りに努めている。	HUGシステムにより利用日の様子を写真や丁寧な記録でタイムリーに保護者に届けている。困りごとがあれば相談体制を整えている。 職員配置は概ね職員1名に対して子ども2名程度とし、きめ細やかな支援体制を整えている。日々ミーティングをおこない、情報共有に努めている。	今後も、保護者様と連携しながら子どもの成長を支援していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個室で、クールダウンやゆっくり対応したい子どもがいる時の場所の確保が難しい。	一戸建てのため、部屋数に限りがあり出ていない。	建物の構造上、抜本的な改造は難しいため、パーティションやカーテンなどで仕切ったり、安全面とのバランスを図りながら可能な範囲で対応進めていきます。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の子どもの交流する機会が少ない。	児童センターには行っているが、交流とまではしていない。 平日はそれぞれ下校時間もバラバラで、時間の確保が難しいので土曜日や長期休み等で考えていく。	土曜日や長期休みの児童センターの企画を確認して、利用児と地域の子どもの交流できそうなものについては積極的に参加していきます。
3	保護者同士の交流する機会を設けていない。	今年度は保護者支援の勉強会として講演会を実施したが、保護者交流の場を設けることはできなかった。	ニーズを把握し、機会設定を検討していきます。